

# ふれあい

No. 9

編集発行

上越市立春日小学校

校長 田邊 道行

保護者や地域の皆様におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。

本年も、子どもたちの更なる成長と幸福に満ちた一年となりますよう、職員一同精一杯取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、令和8年の正月は、皆様どのようにお過ごしになりましたでしょうか。今回は、2学期終業式と3学期始業式で子どもたちに話した内容の一部をご紹介します。

年3回の終業式では、毎回、各学年の代表児童が学期や年間の振り返りを発表します。今回、2学期の終業式でも、6人の代表児童が2学期中に頑張ったことを述べ、最後に「学年のまとめを頑張りたい」「中学校に進学する準備をしたい」など3学期に向けた思いを語っていました。発表後、全校児童に次のように問い掛けました。

「たい」は何匹いましたか。

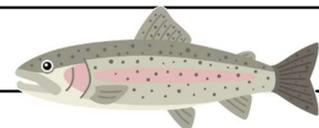
語尾の「～したい」「頑張りたい」に着目させるため、魚にたとえて尋ねましたが、子どもたちはしっかりと数えてくれました。そこで、次のように話を続けました。



「たい」は希望や願いを表します。新しい年を迎えるにあたり、たくさんの「たい」をもちましょ。ただ、私がかもう一つ大切にしている魚があります。我が家では、毎年元旦に家族全員が抱負を語ります。元旦の「旦」の字は、地平線から太陽が昇る様子を表しており、「元日の朝」を意味します。「抱負」とは目標のことです。

そのときに大切にする魚は、何だと思ひますか。

答えは「ます」です。「たい」が希望を表すのに対し、「ます」は決意を表します。我が家では、「～したい」ではなく、「～します」「頑張ります」という言い方で抱負を語るようにしています。私自身も「学校では、〇〇していきます」「家では△△します」のように宣言してきました。こうして言葉にすることで、目標が実行への約束になります。実際に、毎年元旦に語った抱負に沿って行動し、約束した方面へ必ず家族旅行に行くことができました。



この「たい」や「ます」は、当校の合言葉「わくわく・チャレンジ・ありがとう」にもつながる考え方です。皆さんも、新しい年に「たい」や「ます」で抱負を語るようにしてほしいと思ひます。

3学期の始業式では、「お正月の『なぜ?』」について問い掛けました。

まず、「新年あけましておめでとうございます」と挨拶するのはなぜでしょうか。



正月の「おめでとう」は、新しい年を無事に迎えられたことへの感謝と祝福の言葉です。昔は「年を越す」こと自体が大きな出来事であり、再び会えた喜びを心から祝うという意味が込められています。

次に、「令和8年(2026年)」のように、年の表し方は、なぜ2つあるのでしょうか。

年の表し方には、和暦と西暦があります。

和暦は日本独自の年の数え方で、天皇の代ごとに元号が変わります。元号が変わると、年の数え直しになるので、その時代を意識しやすいという特徴があります。

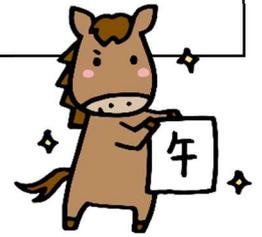
一方、西暦はキリストの誕生を基準にした世界共通の数え方です。数字が連続し、途中で変わりません。なお、西暦には0年がなく、西暦1年の前年は紀元前1年となります。これは、西暦が作られた当時、0（ゼロ）という数字の概念がまだなかったためです。また、後の研究により、キリストの誕生は紀元前4年頃であったと考えられています。

さらに、今年の干支である「丙午（ひのえうま）」についても話をしました。

「午」と似ている漢字に「牛」があります。角が出ているのが牛ですね。でも干支の牛は「丑」で、馬も日常的に使うのは「馬」という漢字です。なぜ「馬」と「午」、「牛」と「丑」があるのでしょうか。

「午」はもともと馬を表す漢字ではなく、時刻や方角を示す記号でした。「午」は南の方角や、太陽が最も高く強くなる昼の12時頃「正午」を表します。その力強いイメージから、勢いのある動物である「馬」が当てられたとされています。

「丙午」には迷信もあります。江戸時代以降、「丙午生まれの女性は気性が激しく、夫の命を縮める」といった言い伝えが広まりました。迷信とは、科学的な根拠や確かな証拠はないのに、長く信じられてきた考え方や言い伝えのことです。例えば「黒猫が前を横切ると不吉」「夜に口笛を吹くとよくないことが起こる」「特定の日や年は縁起が悪い」などがあります。迷信は昔の人の不安や願いから生まれ、「うわさ」によって広がりました。私たちは、たくさんの情報がある時代に生きています。事実と迷信を分けて考える力を大切にしていきたいものです。ただし、迷信は悪いことばかりではありません。不安な気持ちを和らげたり、危険を避けるように注意を促したりして、文化として語り継がれるところもあります。



午年は「物事が前に進みやすい年」「挑戦に向く年」「行動力が高まる年」とも言われます。また、馬は人と共に働き、運び、支えてきた動物であることから、「努力が実を結び、成果が広がる年」「人と人とのつながりが広がる年」とも考えられてきました。

これらを踏まえ、今年も「よりよいかかわる年」となるよう、子どもたちと共に歩んでまいります。

## 「春日小学校同窓会」の今後の方向性について

これまで春日小学校では、卒業生を対象とした記念品贈呈などの活動を「春日小学校同窓会」の名称で行ってきましたが、役員体制が整っておらず、組織的な活動が実質的に行われていない状態が続いておりました。こうした状況を踏まえ、今後の在り方についてPTA本部役員と協議を行った結果、「春日小学校同窓会」は今年度をもって発展的に解消し、その事業をPTAの中に組み込んでいくことといたしました。

以下の手順に沿って今後の対応を進めてまいりますので、保護者・地域の皆様におかれましてはご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

<同窓会の解消に向けた今後の内容>

- (1) 春日小学校同窓会は今年度をもって発展的解消し、事業内容をPTAに組み込む。
- (2) 今年度の同窓会入会式は行わない。
- (3) 卒業生への記念品はPTA会計より全額支出する。
- (4) 同窓会会計より、学校へ記念品を購入して贈呈、残金はPTA会計に組み込む。

※ 案：体育館ステージ幕及び工事費 体育館用のプロジェクターと大型スクリーン

- (5) 現会長へは確認、承認の後、感謝状を贈呈する。 ※ 承認、贈呈済み
- (6) 保護者や地域へは今回の学校だよりを通して周知する。



# にじいろ学年(2年生)

にこにこ えがおで なかよし  
 じっくり かんがえ 学びあう  
 いろんなことに チャレンジ  
 にじいろっ子

2学期は、秋・冬野菜の栽培、町探検、野菜の調理活動やおもちゃづくりなど、わくわくする活動を体いっぱい楽しんできました。学校内では自然や生き物、学校外では町や人などかかわりながら、楽しいことをたくさん経験し、いろいろな学びを得ることができました。にじいろっ子たちは、3年生に向けてまだまだ成長していきます。

秋はじゃがいもとさつまいも、冬は大根と薬物野菜を収穫しました。「大きいのがとれた!」と、みんなで収穫の喜びを味わいました。

じゃがいもとさつまいも、大根は調理しておいしくいただきました。「感謝の会」を開き、畑の先生やボランティアの方にお礼の気持ちを伝えました。

町探検では朝市に行き、地域の人とたくさんかかわりました。おもちゃづくりでは、1年生を招待するための「おもちゃランド」を計画中です。



# 5年生あおぞら学年

昨年の5月に田植えを行い、9月の収穫に向けて、地域や専門家の方々に支えていただきながら、活動してきました。

子どもたちは、稲が元気に育っているか何度も観察したり、学校田の看板を作ったりしながら、お米を育てる大変さを実感しました。9月には無事に約320キロのお米を収穫することができました。

メリハリ  
 つながい  
 高まり

メリハリもってつなれば みんなで高まる あおぞら学年



収穫したお米を「あおぞらの雲」と命名しました。持ち帰りや調理・試食をして、美味しさをかみしめました。そして、「お米の美味しさや自分たちの頑張りを多くの人に知ってもらいたい」という思いから、販売を決めました。

各学級で、販売するお米の名前やラベルのデザインを考えたり、お米の袋詰めをしたりして、準備を進めました。当日は、事前に決めた役割分担で、お客さんの呼び込み、レジ、商品を渡す係に分かれて販売し、多くの方に買ってもらうことができました。販売後のアンケートには、「もちもちで美味しかった」「5年生のみなさんが頑張っているのが伝わった」とあり、子どもたちの思いが多くの地域の人々に伝わりました。

